

2024年度 第22期

事業報告

(事業年度：令和6年4月1日～令和7年3月31日)

2025年6月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

## <2024年度概要>

今年度「第4回日本財団みらいの福祉建築プロジェクト」に応募し、3次審査を通過して、浜松市中心市街地にもう一つ拠点を設けることが決定しました。2028年4月のオープンを目指しています。

総面積 300 坪、その半分に、生活介護、地域活動支援センター、相談支援事業所、グループホーム（10 人定員）が入ります。残り 150 坪（シェアキッチン、共同浴場、シェアリビング、シェアハウス、ゲストハウス、その他）は地域に開いた建物を建設します。まさにレッツのミッションである「多様な人が共に生きる」建物を目指します。

福祉事業は、今年度、2010 年より障害福祉を始めた入野町から、すべての機能を浜松市の中心市街地に移しました。5 月より、アルス・ノヴァ入野は、アルス・ノヴァ伝馬町としてオープンしました。また 2022 年から同じく中心市街地の紺屋町の一軒家で始まった「ちまた公民館」は、12 月から地域活動支援センターと相談支援事業の機能を併せ持つ拠点として、田町の万年橋パークビル 1 階においてリニューアルオープンしました。

これに合わせて、就労継続 B 型を廃止し、もともと居場所利用の傾向が強かった利用者のほとんどが地域活動支援センターに移行しました。またそれに伴って相談支援事業所もオープンし、きめ細かなサービスを提供できる体制が整いました。

生活介護は 4 月に新入生 4 名を迎え、利用者の皆さんが多くの出張（かしだしたけし：クリストファー大学 3 回、中京大学、浜松市こども園連合会研修、はなぞの会、愛知県公民館連合会、など）を行いました。またタイムトラベル 100 時間ツアーや見学者が非常に多く（年間 500 名程度）、利用者の皆さんが大活躍の 1 年でした。

ヘルパー事業所 ULTRA は、アルス・ノヴァ利用者を中心に、宿泊、買い物、身辺自立などを体験する場として利用が増加しています。登録ヘルパーも増えていますが、需要と供給のバランスが難しい事業です。同時に 3 階の狭小化が課題となっています。

文化庁の事業で行った「生きのびるためのエクササイズ」ではそれぞれの分野のキーパーソンをお迎えして宿泊しながらトークする「ひとインれじでんす」や、地域の人たちからお話を聞く「ちまたトーク」など、ちまた公民館を中心に 100 以上の多様な講座を実施し、県内外から、2000 人以上の方々が来訪しました。また昨年度に引き続き行った「お祭りごっこ～みんなでつくる凸凹まつり」を契機に、地域のさまざまな団体との協働が本格的に始動し始めました。

## （1）障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

### ①生活介護

【アルス・ノヴァ連尺町(生活介護定員：20名)】

#### ■生活介護利用者数

契約者数 20 名（2025 年 3 月 31 日）、1 日の平均利用者数は 12.3 名(昨年度は 11.1 名)

#### ■アルス・ノヴァの支援

これまでの通り個々の興味関心、こだわりやルーティンを尊重した支援をしながら、より施設外での活動を強化している。HICE（浜松国際交流協会）のイベントや、南区にあるスケートパーク・ヌートリアで行われたアルス・ノヴァ送迎車へのペインティングイベントにも大勢で参加した。聖隷クリストファー大学や佐鳴台小学校との交流も継続。街なかを散歩したり、浜松まつりにも参加させてもらうなど、街の住人の一員になっている。個々の利用者の「興味」に楽しんで寄り添うことで、外との繋がりが生まれていくのを日々感じる事ができている。

「タイムトラベル 100 時間ツアー」で毎月様々なタイプの観光客が来る事が、支援の問い直しの機

会や利用者の生活の張りにもなっており、風通しの良い環境を作る上で大事な要素になっている。

## ■健康

運動量の減少や代謝の低下、食へのこだわりも相まって肥満傾向の方が多い為、身体を動かすメニューに力をいれている。デパートやちまた公民館への散歩、たけぶんマラソンやダンスを毎日行い、トランポリン、バランスボールなどの運動グッズも揃えた。マイクを持ちながらのトランポリンや、腕の筋力維持の為にアコーディオンを使うなど、創意工夫を持って対応している。感染症の拡大を防ぐために、定期的な換気消毒を行い、検温や本人の訴え、顔色の変化などを多角的に観察することで体調不良の早期発見、対処ができるようにしている。また、高熱が出た場合には病院で受診をしてもらうことで拡大を大幅に防げている。

## ■利用者の生活支援

家庭の抱える問題は個々に違う為、それぞれに異なるアプローチをしている。同居が難しくなっている利用者もあり、相談支援や看護、他施設と会議を重ねながら連携して支援を行っている。親御さんとの面談で現行の相談支援との関わりに問題があった場合には、当法人の相談支援の利用のアナウンスもしている。



【アルス・ノヴァ入野（入野町・田町）、アルス・ノヴァ伝馬町（伝馬町）】

■生活介護（定員 10 名） ※2025 年 1 月～（定員 20 名）

2024 年 6 月に入野町から田町の万年橋パークビルの 1F（元 黒板とキッチン）に移転、2025 年 1 月には伝馬町の沢ビル 3・4 階に拠点を移した。

街中に来るにあたって、連尺と入野の利用者の過ごし場所の整理を行い、平均利用者数は変わらないものの、契約する拠点の入れ替わりがあった。

また、地域活動支援センターの開所に伴い就労継続支援 B 型が廃止され、名称を「アルス・ノヴァ伝馬町」に変更し生活介護（定員 20 名）のみの運営となった。

実利用者数 12 名、毎日平均 7～8 名が通所しており(2025 年 3 月 31 日時点)、2 名の利用者が就労 B から生活介護へ移籍、2025 年 3 月にみをつくし特別支援学校を卒業した方がひと足先に利用を開始した。

■アルス・ノヴァ伝馬町の支援

変わらず利用者それぞれのこだわりやルーティーンを尊重した支援が行われており、街中という場所を生かしてアップグレードされている。連尺との距離が近づいたことで拠点の行き来が可能になり、利用者同士の新たな交流が生まれたり、一緒に散歩に出かけることで活動の幅が広がった。

家電量販店やデパートなどに行ってチラシをもらってくる『ビックカメラ！（ユニクロ！）』、お客さんにコーヒーを振る舞う大ちゃんコーヒー、など入野町から変わらない活動も街中という環境で広がりをみせている。

また、毎週水曜日に行われる遠方ドライブは拠点が変わっても継続して行われており、そういった今までの楽しみが減ってしまうことなどがないように心がけている。

これからも本人の特性や要望などを考慮しながら、利用者の可能性を狭めないよう柔軟な姿勢で取り組んでいきたい。

■健康

利用者の年齢が上がるにつれて健康面での懸念が増えてきたため、日中での生活習慣の見直しや、食事や運動などに関するご家庭・グループホームへの提案など、様々な取り組みを行った。アルス・ノヴァならではの試みとして、利用者のこだわりや好みに合わせた運動を促進している。好きな音楽のリズムに合わせてジャンプするトランポリンを使った運動や、楽器を使ったりリハビリ運動など、利用者に合わせた形式を取り入れることで 継続して運動を行えることを目指した。

■屋外活動、他者との繋がり

田町に移転してからは、施設内にちまた公民館としての機能も加わったため、お客さんとの交流が増えた。講座などにも気軽に参加できたことで、新しい体験や興味、才能を引き出すことができ、発展した活動に繋がっている。

また、街中で開催された「凸凹まつり」や小学校に出向く「みにみにアルス・ノヴァ」様々な場所に押しかけていく「かしだしたけし」などの施設外イベントにも参加しやすくなった。

「タイムトラベル 100 時間ツアー」のお客さんとも交流する時間が増え、ツアーの終盤にはすっかり仲良しになっている場面も見受けられた。

イベントだけでなく、街中を散策することで顔見知りが増え、店員さんの方から声をかけられたり、ちょっとした雑談を楽しむなど、地域コミュニティの輪を広げている。今後も、本人の興味や課題を共有しながら、これまでの取り組みを発展させた活動を軸に、利用者と共に職員一人ひとりが積極的に今後の過ごし方を模索していく。



## ②就労継続支援B型

平成 27 年（2015 年）にアルス・ノヴァ入野として開所した就労継続支援 B 型だが、令和 6 年（2024 年）12 月末をもって閉所しサービス提供を終了した。サービス提供が終了した主な理由は、近年の利用者数の減少、新たに開所する地域活動支援センター及び相談支援事業所の開所に向けた組織再編、そしてクリエイティブサポートレッツが提供する就労継続支援 B 型が一定の役割を終えたことがあげられる。

当法人が提供してきた就労継続支援 B 型の特徴は、「就労」が絶対の目標ではなかったことにあると考える。まずは利用者本人がやりたいことや興味のあることに打ち込み、その中で自尊心や社会との繋がりを育むことを大切に支援を行ってきた。「のづあてれび」「玄関ライブ」「バンド活動」「演劇」等の表現活動はその最たる例である。実際に活動をする中で自尊心を回復し、さらなるステップアップを求めてより専門的な就労支援を受けられる事業所へ移行した方も多い。直接的な就労訓練を当事業所が行うことは少なかったが、結果的に当事業所の取り組みが就労支援になっていたことは興味深い現象だったと感じている。

10 年前、当事業所が開所した当時、一般的に就労支援施設が持つ役割としては、障害者が職業訓練を受け、いかに経済的に自立し社会復帰をするかという点に重点が置かれていたように思う。その中で経済的な自立よりも個人の自由な表現活動を尊重し、「就労」の枠組みに因わず活動を行ってきた当法人の就労継続支援 B 型の取り組みは異色であったといえる。しかし近年では就労継続支援 B 型のプログラムとして e スポーツやアート、カフェ運営に農業など、いわゆる「軽作業」の枠に収まらない個性的なプログラムを提供する事業所が増えてきた。その背景には社会全体で多様性を受け入れる土壌が形成されてきたことや、働き方そのものへの考え方が変わってきたことが関係しているのではないかと感じている。当法人の就労継続支援 B 型の取り組みが大河の一滴として、この大きな社会の流れに貢献できたとしたら幸甚である。

サービス提供を終了した令和 6 年 12 月末時点で就労継続支援 B 型の利用者は 7 名。そのうち 5 名は就労継続支援 B 型の事業を引き継いだ地域活動支援センターちまた公民館へ移行、他 2 名も当法人の生活介護に利用サービスを移行している。就労継続支援 B 型としての活動は一旦終了したが、これまで培ってきた文化やノウハウは後継事業である地域活動支援センターへと引き継がれている。今後は地域活動支援センターの事業として就労継続支援 B 型の取り組みを継続・発展させていきたい。

### ③訪問介護事業

#### ■重度訪問介護 利用者数

延利用者数：125 人（前年度比約 52%増）、延提供時間：18,240 時間（前年度比約 43%増）（2025 年 3 月 31 日）

#### ■重度訪問介護 | 自立生活の支援

アルス・ノヴァ ULTRA は、障害のある人の文化的かつ自立した生活を支援することをミッションとし、2020 年 9 月の重度訪問介護事業開始以来、浜松市たけし文化センター連尺町のシェアハウスで 3 名の重度知的障害のある青年の自立生活を支援してきた。2024 年 3 月、緊急の必要から新たに 1 名の青年が親元を離れて生活を開始した。十分な支給量が確保できないため、アルス・ノヴァ ULTRA の重度訪問介護と他施設の短期入所を組み合わせることで支援を行っており、支給量については浜松市の担当課と現在も交渉を続けている。2025 年 3 月時点で、さらに 10 名の重度知的障害のある青年が重度訪問介護を利用して自立生活を体験しており、平日夕方や一泊二日の機会に、介護者とともに親元を離れた場所で外出、遊び、食事、入浴などの生活経験を積んでいる。なお、利用者の増加に伴い、2024 年 8 月に浜松市新橋町に自立生活体験のための新たな物件を用意した。

アルス・ノヴァ ULTRA は、食事、買い物、入浴、排泄、遊びなどの日常的生活支援に加え、怪我や病気による急な体調変化にも対応できるよう、独自の支援記録ツールや ICT を活用し、他の居宅介護事業所、医療機関、訪問看護、薬局と連携して支援に取り組んでいる。2024 年 7 月には、利用者が持病の検査入院を行った際、重度訪問介護を通じて入院中の生活支援やコミュニケーションを支えた。

利用者は日々、介護者とともに街中のさまざまな場所へ出かけている。ある青年は、特性により自宅の浴室を利用できないため定期的に銭湯を訪れており、店舗との相談を通じてこれまでなかった障害者割引制度を導入した銭湯が 2 軒あった。街での生活そのものが社会資源の開拓につながることを実感している。また、音楽を愛する青年が、2024 年夏に移動支援を利用する他の利用者とともに、豊田市の音楽フェスティバル「橋の下音楽祭」に参加した。

#### ■スタッフの新規雇用と育成について

2025 年 3 月時点で、アルス・ノヴァ ULTRA には正規職員 4 名、常勤ヘルパー 4 名、登録ヘルパー 16 名が在籍し、障害のある人の生活支援に取り組んでいる。登録ヘルパーは、写真家、園芸家、音楽家、書店経営者、学生など、それぞれの本業と兼業しながらヘルパーとして活躍している。

知的障害のある人の自立生活では、複数の介護者がバトンをつなぐように当事者の生活支援を行うことが重要である。そのため、情報や知識の共有、スタッフ間の相談、研修、民主的な事業運営を目的に、定期的な会議を実施している。2024 年度に引き続き、月 2 回の会議を「事務運営会議」と哲学対話形式の「しえんかいぎ」に分け、交互に開催した。「しえんかいぎ」では、スタッフやヘルパーがテーマを担当し、日々の支援や自身の生活での気づきや葛藤をもとに、結論を急がず自己理解や相互理解を深め、違いを味わい尊重する姿勢を育む機会となっている。

一方、利用者と職員の増加による業務の複雑化に伴い、健全な管理運営体制の構築が課題となり、シフト作成の担当分担や業務フローの改善に取り組んでいる。



2024 年 8 月に郊外に開設した自立生活体験のための物件、通称「新橋の家」にて



浜松まつりにて、シェアハウスで住民が連尺町の激練りに参加



重度訪問介護を利用しながら検査入院



重度訪問介護を利用しながら検査入院



豊田市で開催されている野外音楽フェス「橋の下音楽祭」に遊びに行く

## (2) 障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業

今年度事業実施なし

### (3)障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業

令和 7 年（2025 年）1 月 1 日に「地域活動支援センター ちまた公民館」と併せて「相談支援事業所 ちまた公民館」が開所した。地域活動支援センターと相談支援事業所は併設しているため、所在地はどちらも浜松市中央区田町、人通りが多いゆりの木通りに面した万年橋パークビル 1 階のテナントである。

相談支援事業所は全国的に障害福祉サービスの利用者数に対して数が足りていないと言われている。そして、それは浜松市も例外ではない。実際に現場で支援に従事している他法人の相談支援専門員や、計画相談を利用希望する利用者の話を伺っても、相談支援事業所一件辺りが担当する利用者数が多いためスムーズに新規受け入れが進まず、サービス利用を申請してから待機期間が生じるためすぐにサービス利用できないケースが多いことがわかる。

そういった状況での開所であるため、開所して間もない頃こそ計画相談の以来はほとんどなかったが、事業所が周知され始めた 3 月以降は計画相談の依頼が急増し、現在は一ヶ月あたり 5 件のペースで新規計画作成の依頼を受けており、令和 7 年 3 月末の時点で事業所の利用契約者数は 15 名となっている。ちなみに浜松市内の相談支援事業所の相談員一人辺りが持つケース数の平均は 29.8 人（R6 年度）なので、かなりハイペースで受け入れているといえる。しかし対応出来るケースは現状で上限に達しており、今は新規で計画作成の依頼があっても 1 ヶ月ほどお待ち頂く状況が続いている。

直近の目標としては当面、支援の効率化を進めながらなるべく多くのケースに対応することで地域福祉の貢献に努めていきたいと考えている。長期的な目標としては、当法人が推進している障害を抱えていても多様な生き方が出来る社会の実現に向けて、計画相談の立場からフォーマル・インフォーマルサービスを活用した既存の福祉サービスに囚われない柔軟な生活の在り方を提示していきたい。また、重度訪問介護は地域特性や制度活用の課題から、地域生活を支える制度として選択肢に上がりにくい現状があるため、同法人内で重度訪問介護を提供している強みを活かして、今後は必要な方に必要なサービスが行き渡るよう、サービス利用調整支援を通して、多くの人がよりその人らしい生活を送ることが出来るようサポートを行っていきたい。

### (4)障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業（移動支援）

#### 行動援護

延利用者数：13 人（前年度比約 63%増）、延提供時間：86.5 時間（前年度比約 260%増）

2025 年 3 月時点で、2 名と利用契約を結んでいる。そのうち、これまで行動援護を通じて市街地での外出や散髪を定期的に支援してきた 1 名が、2025 年 3 月に生活の変化に伴い利用契約を終了した。

### (5)障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業（日中一時支援）

■利用状況 ※〔〕は他サービスとの併用無しの利用数

年度平均利用者数（2024 年度）

14.9〔7.8〕件（2024 年度 17.8〔9.5〕件）

月別平均利用者数（2024 年度）

2024 年

4 月／23〔10〕名      5 月／18〔8〕名      6 月／14〔7〕名      7 月／12〔7〕名

8 月／12〔7〕名      9 月／16〔10〕名      10 月／20〔10〕名      11 月／19〔7〕名 12 月／7〔5〕名

2025 年

1 月／9〔7〕名      2 月／14〔7〕名      3 月／15〔9〕名

#### ■ 2024 年度の状況

昨年度は、利用人数が各月 9〔5〕～23〔10〕件の間で推移し、昨年度に比べて減少する傾向にあった。原因は、主に生活介護との併用をする利用者が移動支援を利用することが増えたことにあると思われる。そのため、今年度の日中一時支援は、概ね土曜日に集中した。一方で、1 月から就労支援 B 型がなくなったことで、そちらの利用者が平日に日中一時支援を使うことになった。

利用者は基本的に居場所利用として「たけし文化センター連尺町」に來所するが、生活介護の利用者と一緒に散歩をしたり、イベントに参加するなど、充実した時間を過ごしてもらっている。

2025 年度は、地域活動支援センターの活発化に伴い、日中一時の営業日の調整を行う予定である。今後に向けて、大きな課題や問題は今のところ思い当たらない。引き続き、それぞれの利用者にとって快適な時間を過ごしてもらえるための場の整備に努めていきたい。

#### (6) 障害者総合支援法に基づく地域生活事業（地域活動支援センター）

以前は紺屋町にあったちまた公民館が令和 6 年 6 月に現在の田町に移転した。そして令和 7 年(2025 年) 1 月 1 日に就労継続支援 B 型だったちまた公民館が、地域活動支援センターちまた公民館へとサービス種別が変更となった。ちまた公民館が地域活動支援センターになったことで、ちまた公民館がより地域に開かれ、様々な人達が集う場所として役割を担うことができるようになった。

地域活動支援センター化したことを機に、より多くの人に興味関心を持ってもらい、直接公民館に足を運んで頂けるようプログラム活動の見直しを行った。スタッフが個人的に打ち込んでいることや趣味をプログラム化したり、利用者のニーズを取り入れたプログラム立案を行った。紺屋町からの移転に伴いこれまで來所していた方の利用が減り、一時的に利用者数が減った時期があったが、地域の方へのちまた公民館の周知が進んだことや、プログラム活動の効果もあってか今年に入ってから利用者数は増加傾向にある。

プログラム内容は集まった人同士で近況報告をし合う「SDM（最近どうっすかミーティング）」や、ちまた公民館でお菓子作りをする「ちまちまクッキング」「朝鮮・韓国語講座」「麻雀会」「手芸部」などを現在行っている。これらはスタッフが主体となって定期的に開催しているプログラムであるが、他にも地域の方が主体の持ち込み企画イベントも増えてきている。最近では「パステル画講座」や小学生が自ら企画・運営をした「ベイブレード大会」などを実施した。

今後も障害の有無にかかわらず誰もが集える居場所として、プログラム活動の充実や広報・周知に力を入れつつ、一人でも多くの人に「ちまた公民館があって良かった」と思って頂けるよう、今後も運営を続けていきたい。

#### (7) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

今年度事業なし

## **(8)児童福祉法に基づく障害児相談支援事業**

今年度事業なし

## **(9)社会福祉に資するシェアハウス・ゲストハウス事業**

たけし文化センター 3 階はシェアハウス 4 室、ゲストハウス 1 室（2 名宿泊可）があり、シェアハウスでは前年度に引き続き、知的障害のある方 3 名がヘルパーの支援を利用しながら自立生活を送っている。完全に親元を離れるのではなく、週に 1～2 日は家へ戻るリズムで安定している。夕方からヘルパーが 2 人支援に入る方もいるので、夜はキッチンが混みあってにぎやかになる。

こうした生活が定着しているいっぽうで、日中サービスである生活介護の利用者も年齢が 30 代が多くなり、本人の介護をする同居家族の高齢化など様々な事情から実家での生活が困難になってきた方が増えてきた。障害支援区分や個々の状況により、ヘルパーサービスである重度訪問介護の支給が受けられなかったり、支給量が少ない場合もあり、宿泊はせずとも、せめて夕方から夜にかけて、食事や入浴、のんびりするだけでも助かる、ということから、ゲストハウスの日帰り料金を設定して対応した結果、空室を利用して週 3 回程度の日帰り利用をする方が増えた。また、その方の宿泊体験も増えてきた。

ゲストハウスは毎月の観光ツアーで利用されることが多い。ツアー定員が 10 名なのに対し、ゲストハウスは同性 2 名までが定員であるため、早く申し込んだ方から埋まり、お断りすることも多い。ただ、ゲストハウスとして公式に宿泊施設として公開しているわけではないため、一般宿泊者は多くない。そのぶん、空いている日には利用が増えた日帰り利用者を受け入れている。

その結果、常に 3～5 名の障害のある方とそれぞれのヘルパー、宿泊者が 3 階に集まることになり、キッチンの利用や入浴のタイミング、空間の利用、洗濯物を干す場所などあらゆる場面で手狭になってきた。

さらに、来年度以降は重度訪問介護の支給を受ける方が増える予想で、シェアハウス・ゲストハウス利用の希望も確実に増えるであろうことから、自立生活に移行するための新たな場所を探してきたが、令和 6 年度に浜松ちまた会議のメンバーからの物件のご紹介により、ゲストハウスの長期滞在の利用者が新たな物件での一人暮らしをする道すじが整った（令和 7 年春・予定）。

## **(10) 社会福祉に資する不動産事業**

今年度事業実施なし

## **(11) 共生社会を目指す体験型交流事業**

### **●タイムトラベル 100 時間ツアー**

2024 年度で 8 年目を迎えた「タイムトラベル 100 時間ツアー」。新規参加者、リピーターのほか、団体でのツアー参加も増加している。担当者（ツアコン）は月交代制。毎月異なるスタッフが観光プランを作成し、旅人のアテンドを行った。

県外からの参加者が多い。また、ウェブサイトや SNS のほか、口コミや紹介で知ったという方が増えている。

【タイムトラベル 100 時間ツアー／実施 11 回／参加者総数 77 名】

4 月 19 日～20 日 参加者 3 名（事前申込み 3 名）（東京、愛知、埼玉）

5 月 17 日～18 日 参加者 3 名 (事前申込み 2 名) (東京)  
6 月 14 日～15 日 参加者 11 名 (事前申込み 11 名) (愛知 8、静岡 2、東京 1)  
7 月 19 日～20 日 参加者 1 名 (事前申込み 1 名) (東京)  
8 月 16 日～17 日 参加者 3 名 (事前申込み 5 名) (愛知、長野、埼玉)  
9 月 20 日～21 日 参加者 3 名 (事前申込み 3 名) (千葉 2、福島 1)  
10 月 18 日から 19 日 参加者 10 名 (事前申込み 10 名) (東京)  
11 月 15 日～16 日 参加者 7 名 (事前申込み 7 名) (東京)  
12 月 20 日～21 日 参加者 9 名 (事前申込み 12 名) (千葉 2、神奈川 1、浜松 1、東京 3、埼玉 1、京都 1)  
1 月 17 日～18 日 参加者 20 名 (事前申込み 20 名) (愛知 4、京都 12、兵庫 3、滋賀 1)  
2 月 14 日～15 日 参加者 7 名 (事前申込み 7 名) (東京 1、愛知 2、静岡 1、京都 2、大阪 1)

## ●学習プログラム

2024 年度小学校交流事業について

### 【みにみにアルスノヴァ】

みにみに@佐鳴台小学校は毎月実施で定着しました。昼休みに訪問させていただき小学生と一緒に体育館や校庭で過ごしました。

2024 年

6/4 (火) 12:40～13:10 @佐鳴台小 シニアクラブの訪問と同時に開催。

7/2 (火) 終日 @佐鳴台小

9/3 (火) 12:40～13:10 @佐鳴台小 看護学校の実習生も参加

10/1 (火) 12:40～13:10 @佐鳴台小

11/5 (火) 12:40～13:10 @佐鳴台小

12/3 (火) 12:40～13:10 @佐鳴台小

2025 年

2/4 (火) 12:40～13:10 @佐鳴台小

3/4 (火) 12:40～13:00 @佐鳴台小

### 【GOGO！たけぶん探検隊】

2024 年度の実施はありませんでした。

### 【修士論文のための取材を受けました】

「人権のためのシティズンシップ教育」の意義と課題

—市民社会組織による子どもを対象とした学習プログラムの考察を通じて—

Significance and Issues of Citizenship Education for Human Rights

- Learning from an Examination of Learning Programs for Children by Civil Society Organizations

指導教員： 亀井 善太郎 特任教授

社会デザイン研究科 社会デザイン学専攻

梁井 裕子

## **（１２）文化センター事業**

### **《『表現未満、プロジェクト』新しい価値を共創する～哲学・学び・アート・場づくり》**

（文化庁 令和６年度障害者等による文化芸術活動推進事業）

### **《異文化交流「凸凹まつり」～共同制作で繋がる新しいコミュニティ～》**

（支援：アーツカウンシルしずおか）

## **１・新しい価値創造のための思考と実験**

### **1-1 新しい価値創造のための研究会議の実施**

レッツの事業をもとに新しい価値について考える調査チームを発足し、24年間のレッツの活動等の調査から新しい価値創造を考察する。毎月１回ゲストを招いて行う滞在型トークイベント「ひとインれじでんす」（2-3）を実施し、議論を行った。

#### **【研究チームの発足と研究】**

期間：５月～２月

高石萌生（文化政策研究者）、和久井碧（立教大学）、松島良太（ヘルパー）、高林洋臣（元スタッフ）、  
棕本湧也（編集者）、垣花つや子（編集者）、久保田翠（レッツ理事長）

サポート：レッツスタッフ 17名

#### **■研究会１ 計３回**

１・７月18日（浜松）、２・９月12日（東京）、３・３月8日（浜松）

#### **■研究会２ 計８回**

（17：30～20：00 場所：たけし文化センター・ちまた公民館）（ひとインれじでんす（2-③）と併用）

スケジュール：１日目／見学調査・研究会

１・８月3日 岸井大輔（劇作家）

２・９月13日 松村圭一郎（文化人類学者、岡山大学教授）

３・10月4日 村上慧（作家、アーティスト）

４・10月9日 西川勝（臨床哲学プレーヤー）

５・11月8日 伊藤亜紗（美学者・東京工業大学教授）

６・11月14日 小松理虔（作家・地域活動家）

７・12月8日 松尾亜紀子（編集者・エトセトラブックス代表）

８・1月10日 青田元（ヤマハ発動機株式会社執行役員、新事業開発本部長）

（記録・編集：高石萌生、和久井碧）

#### **■視察・打ち合わせ 計10回**

１・６月1日 近江八幡にて打ち合わせ・見学（フォーラム打ち合わせ）

２・９月7日 はじまりの美術館ヒアリング

３・９月8日 京島（東京）視察、打ち合わせ

４・９月26日～27日 武田知也（演劇プロデューサー）見学・打ち合わせ

５・10月10日～11日 大地の芸術祭視察・アートフロントギャラリー打ち合わせ

６・10月17日 南三陸 311 メモリアル、塩の道トレイル、仙台メディアテーク視察

７・11月21日 佐喜真美術館（沖縄）、普天間基地、視察・ヒアリング

- 8・1月26日 たんぽぽの家（奈良）構想会議
- 9・2月20日～21日 武田知也（演劇プロデューサー）ワークショップ・打ち合わせ
- 10・3月18日～19日 黒田菜月（写真家）見学・打ち合わせ

## 1-2 かしだしたけし+かたりのヴァ 20回

重度知的障害者がレッツスタッフによる講演会、大学講義になるべく大勢で同行し、その姿を体感することから思考や議論を導く。またシェアハウス、ゲストハウスといった生活の拠点を訪ね、現地の人々と交流しながら、新しい価値創造についての議論を行った。

- 1・かしだしたけし@クリストファー大学（看護科）（浜松）  
5月21日／講義+かしだしたけし（出張者10名、参加者100名）
- 2・かしだしたけし@富塚中学校（浜松）  
5月31日／授業+かしだしたけし（出張者15名、参加者60名）
- 3・かしだしたけし@愛知県公民館連合会総会（愛知県名古屋市）  
6月4日／久保田翠講演+かしだしたけし（出張者2名、参加者200名）
- 4・かしだしたけし@浜松医科大学（浜松）  
6月6日／かしだしたけし（12名、参加者30名）
- 5・かしだしたけし@クリストファー大学（福祉科）（浜松）  
6月17日／講義+かしだしたけし（出張者16名、参加者100名）
- 6・かしだしたけし@浜松市民間保育園長会（浜松）  
6月20日／講演+かしだしたけし（出張者18名、参加者100名）
- 7・かしだしたけし@浜松市南区民生委員会（浜松市）  
7月26日／講演+かしだしたけし（出張者5名、参加者40名）
- 8・かしだしたけし@佐鳴台小学校（浜松）  
9月3日／小学生との交流（出張者20名、参加者150名）
- 9・かしだしたけし@佐鳴台小学校（浜松）  
10月1日／小学生との交流（出張者24名、参加者150名）
- 10・かしだしたけし@ぶんじ寮（東京都国分寺）  
10月15日～16日／滞在・ワークショップ・かたりのヴァ（出張者6名、参加者10名）
- 11・かしだしたけし@佐鳴台小学校（浜松）  
11月5日／小学生との交流（出張者20名、参加者150名）
- 12・かしだしたけし@中京大学（愛知県名古屋市）  
11月7日／講演+ワークショップ+かしだしたけし（出張者10名、参加者60名）
- 13・かしだしたけし@はなぞの会研修会（浜松）  
11月30日／講演+かしだしたけし（出張者8名、参加者30名）
- 14・かしだしたけし@クリストファー大学（福祉科）（浜松）  
12月2日／講演+かしだしたけし（出張者20名、参加者100名）
- 15・かしだしたけし@佐鳴台小学校（浜松）  
12月3日／小学生との交流（出張者24名、参加者150名）
- 16・かしだしたけし@愛知大学（愛知県豊橋）  
12月16日／講演+かしだしたけし（出張者6名、参加者30名）
- 17・かしだしたけし@佐鳴台小学校（浜松）

- 2月4日／小学生との交流（出張者20名、参加者150名）  
18・かしだしたけし@日本財団（東京都港区）  
3月4日／授賞式+かしだしたけし（出張者6名、参加者30名）  
19・かしだしたけし@佐鳴台小学校（浜松）  
3月4日／小学生との交流（出張者16名、参加者150名）  
20・かしだしたけし@音楽療法学会東海支部大会（静岡県静岡）  
3月23日／講演+かしだしたけし（出張者7名、参加者80名）  
（そのほか講演会15回）

### 1-3 ラーニングプログラム（タイムトラベル100時間ツアー）

毎月1回行っている宿泊観光ツアーを活用して、企業、福祉、アート、医療、大学など幅広く参加者を募る。同時に議論の場を手厚くし新しい価値創造の思考実験も同時に行った。

タイムトラベル100時間ツアーの実施 16回

- 1・4月19日～20日 3名（福祉1、その他2）
- 2・5月17日～18日 2名（企業1、大学院1）
- 3・6月14日～15日 11名（大学9、大学教授1、美術大学非常勤1）
- 4・7月17日～18日 10名（福祉10）
- 5・8月16日～17日 5名（福祉1、医療1、NPO1、大学2）
- 6・9月20日～21日 5名（NPO2、大学院1、福祉1、企業1）
- 7・10月18日～19日 14名（大学12、福祉2）
- 8・10月25日 16名（城北南民生員協議会委員）
- 9・11月1日 17名（プリコグ視察研修／受講者14名、スタッフ3名）
- 10・11月15日～16日 7名（福祉3、大学1ほか）
- 11・11月26日～27日 4名（京都哲学研究会）
- 12・11月22日 9名（わくわくデザイン）
- 13・12月20日～21日 11名（企業3、福祉1、大学院2名、大学1ほか）
- 14・1月17日～18日 21名（福祉16名、大学5名）
- 15・2月14日～15日 5名（福祉1、大学4）
- 16・3月13日 10名（福祉7、企業3）

### 1-4 「表現未満、フォーラム～新しい価値創造を目指して」の開催

1-1～1-3の思考・実験も含めて、「表現未満、」を通して考える新しい価値創造実験のフォーラムを見学ツアー付きで開催する。京都大学、京都哲学研究会と共同での研究事業。

京都哲学研究所の目標について代表の出口先生よりレクチャー、レッツの事業説明の後、新しい価値創造についての考察を参加者と議論した。

●期間：2025年1月27日

11：00～16：00 見学体験 17：30～20：00 研究会

参加者：出口康夫（京都哲学研究所所長、京都大学）、ワダ・マルシアーノ・ミツヨ（京都大学）、荒木正太（京都哲学研究所・NTT）、（京都哲学研究所・読売新聞）、（京都哲学研究所・博報堂）、岡本隆太郎（京都哲学研究所 岡本製作所）、京都大学文学部哲学科（4名）、長田繁喜（浜松副市長）、高林

健太（株式会社 HACK）、早野亜希子（静岡銀行）、高林洋臣、和久井碧、高石萌生（ZOOM）、棕本湧也（ZOOM）、垣花つや子（ZOOM）  
レッツスタッフ 20 名

## 1-5 報告書の作成と広報

### ●今回の事業を網羅した WEB サイトを開設

「生きのびるためのエクササイズ」として、1, 2 の本事業を WEB 上にまとめた。1-1、2-3 で行ったトーク、招聘関係者の寄稿、担当者の感想と考察、を掲載した。

「表現未満、プロジェクト」の長期にわたる活動により、プロジェクトごとに WEB サイトが点在し、アクセスがしにくい状況であった。そのため、最新バージョンでつくられた当法人のホームページに移行・集約することで、アクセシビリティを向上した。これによって、事業の記録やほかの活動も閲覧しやすくなり、より広報が円滑に進むようになった。

一方、移行の際、WEB サイトのレイアウトを現在の状況に応じた優先順位で整理することで視認性や操作性が向上し、外部の方が参加しやすい環境となった。例えば、タイムトラベル 100 時間ツアーは、一般の方はもちろんのこと企業や団体からの申し込み・問合せが増加している。

### ●映像の制作

- ・今後の活用を考慮して報告を兼ねた事業（1-2 かしだしたけし等）を紹介する映像制作を行った。
- ・言葉やテキストで内容や効果を伝えることが難しい事業であるため、映像をとおして、事業の雰囲気を知りやすく具体的に伝えることができるようになった。また、YouTube や講演で使用することができ、広報・発信が効果的にできるようになった。
- ・玄関ライブ（毎月 1 回配信、12 回）
- ・ワークショップとシラス隊、まつりの報告映像（1 本）
- ・かしだしたけしムービー（1 本）
- ・のづあテレビ（20 本）

### ●報告書の作成

- ・「ひとインれじでんす」を中心に「生きるためのエクササイズ」を伝達・発信する記録集を作成した。1〜4 を掲載。
- ・PDF データを作成。WEB に掲載。（掲載サイト：当法人ホームページ、「生きるためのエクササイズ」サイト）
- ・冊子を作成し、全国の関係機関に発送する。（仕様：A4 判 500 部、112 ページ、発送：300 か所）
- ・「違和感」報告書  
レッツスタッフ 18 名による寄稿文集を制作。「違和感」をテーマに現代の情勢や価値観を導き出す。編集：棕本湧也、垣花つや子

## 2・人が集い、学び、交流し、語らい、思考し、ともに生きる「表現未満、センター」の実践事業

### ①ちまた公民館継続と表現未満センターの設立

中心市街地に障害のある人も包括した文化施設、居場所といった拠点を増やしていく。

2022 年より始まった「ちまた公民館」を、福祉事業（地域活動支援センター）との併用して実施していく。そのために相談支援事業、地域活動支援センターの認可をとり 2025 年 1 月から、相談支援事

業所、地域活動支援センター「ちまた公民館」を実施。

2024年6月より郊外で行っていた障害福祉施設アルス・ノヴァ入野を中心市街地に移転し、2025年1月より、「たけし文化センター伝馬町」（生活介護併設）としてオープンした。

このように中市街地に複数拠点を設け、回遊し、それぞれの場を使い分けることで、街の文化創造拠点を目指していく。

現在たけし文化センター連尺町で実施しているシェアハウス・ゲストハウスは利用ニーズは高く、全国から多くの来訪者、利用者がある。しかしスペースの狭小化が課題となっている。また、中心市街地で拠点を増やしていく努力を続けているが家賃の高騰、狭小化など課題が多い。

2年前から、中心市街地に暮らしを軸とした文化センター（表現未満、センター 仮称：たけし文化センター田町）は、多様な人助け合いながら暮らし、共助の文化を育み、血縁や地縁を越えたコミュニティの構築を行う場を構想してきた。今年度も、地域の人たちとともに作る祭りや、居場所づくり、様々な講座やイベントの開催などを数多く行ってきた、こうした努力が評価されて、この度、日本財団の「みらいの福祉施設建築プロジェクト」に採択され、2025年度から設計が始まることとなった。全国にも類がない建物として期待されている。

- ちまた公民館（5月～万年橋パークビル1階に移転、2025年1月より地域活動支援センター併設）
- 表現未満、センター（たけし文化センター伝馬町）オープン（2025年1月より、生活介護併設）
- 表現未満、センター（たけし文化センター田町）基本計画構想策定（6月～9月）、ヒアリング、ワークショップ、日本財団「みらいの福祉施設建築プロジェクト」に応募、2025年3月決定（総工費6億円 8割助成、坂茂建築設計 延べ床面積300坪7階建、そのうち約150坪は公共空間として市民に開放 2028年4月完成予定）

#### ●視察・ワークショップ・見学 3回

- 1・7月6日 深川えんみち（東京）視察
- 2・12月4日 建築ワークショップ、プレゼン
- 3・1月21日 表現未満、センタープレゼン（東京）

#### ●ちまた公民館事業 103回

- ・ミドのヴぁスペシャル（5月～3月 月1回、11回）
- ・ちまちまトーク（5月～3月 10回）
- ・かたりのヴぁ（5月～3月 11回）
- ・淳子さんの銅版画講座（5月～3月）
- ・焚火ワークショップ（12月～3月）
- ・ちまちまクッキング（12回）
- ・動画制作講座（12回）
- ・韓国語講座（12回）
- ・メゾンド・アキ（4回）
- ・手芸部（10回）
- ・SDM（最近どうっすかミーティング）（10回）
- ・ちまた公民館パンフレットの制作（ポストカード、両面カラー、1,000枚）

#### ②出張ちまた公民館@公共施設

中心市街地にある公共文化施設内に私設私営の公民館「ちまた公民館」の機能を兼ね備えた地域活動支援センターを設置したいと、障害福祉課、市民協働・地域政策課、文化政策課との協議を行った結果、成就せず断念。単独で実施することとなった。引き続き公共施設での他団体（浜松国際交流協会、浜松市社会福祉協議会等）とのコラボレーション事業を継続していく。

【協力団体】浜松市国際交流協会 HICE、JICA 浜松デスク、浜松市社会福祉協議会、浜松市市民協働センター、浜松市科学館、鴨江アートセンター

●出張ちまた公民館 8回

- 1・4月16日 出張ちまた公民館@クリエート浜松
- 2・5月1日 出張ちまた公民館@クリエート浜松
- 3・5月26日 出張ちまた公民館@浜松市鴨江アートセンター
- 4・9月21日 出張ちまた公民館@凸凹まつり
- 5・10月17日 出張ちまた公民館@浜松看護学校
- 6・10月26日、27日 出張ちまた公民館@ゆりの木通り 手作り品バザール
- 7・2月15日 出張ちまた公民館@ヌートリアスケートパーク
- 8・3月22日、23日 出張ちまた公民館@ゆりの木通り 手作り品バザール

●凸基地ワークショップ 14回

（他団体と協働で巨大張り子づくりを行い凸凹まつりで披露）8月26日～9月20日 @ちまた公民館

- 1・8月27日 デコキチウナギ制作（遠州天狗屋、竹村真人）
- 2・8月29日 まちなかポタリング（Green Cog）
- 3・8月30日 デコキチウナギ制作（竹村真人）
- 4・8月31日 光るシャカシャカシラカスを作ろう
- 5・9月3日 デコキチウナギ制作（竹村真人）
- 6・9月5日 まちなかポタリング（Green Cog）
- 7・9月6日 デコキチウナギ制作（竹村真人）
- 8・9月7日 デコキチウナギ制作（遠州天狗屋）
- 9・9月10日 デコキチウナギ制作（遠州天狗屋、竹村真人）
- 10・9月12日 まちなかポタリング（Green Cog）
- 11・9月13日 シルクスクリーンづくり（アサギマダラスポーツ）
- 12・9月14日 ラウルさんのフリードローイング（ラウラ・ロドリゲス）
- 13・9月14日 デコキチウナギ制作（遠州天狗屋）
- 14・9月16日 お面づくり（プスプス by ZING）

●他団体とのコラボレーション企画 7回

- 1・ちまた公民館×静岡文化芸術大学・南田ゼミ「居場所研究会」@ちまた公民館  
第1回 8月23日 参加者5名  
第2回 1月17日 参加者12名
- 2・レッツ×HICE・JICA×社協スペシャルコラボ！異文化交流パーティ  
「これからちまたパーティ!!」  
10月4日 クリエート浜松 参加団体20団体、参加者200名
- 3・レッツ×ヌートリア（スケートボード団体のアパレルブランド）とのコラボレーション企画@ちま

た公民館／12月2日～12月8日

①12月5日 シルクスクリーンワークショップ 参加者：15名

②12月6日 クラブイベント 参加者：50名

4・レッツ×スケートボードパーク×その他コラボレーション

①ワークショップ「みんなで車にペイントしたりステッカーを貼って遊ぼう！」

@ヌートリアスケートパーク／2月15日／参加者80名

②ワークショップ「みんなでペイントしたりステッカーを貼って遊ぼう！」

@ちまた公民館／3月23日／参加者150名

③「表現未満、スクール」～「生きのびるためのエクササイズ」の実施

文化創造発信拠点と文化によるコミュニティ形成を目的に、「集い、学び、交流し、語らい、思考し、ともに生きる」をテーマとした講座やワークショップ、ライブ等を市民対象に行った。

【期間】5月～2月 計97回（かたりのづあ+ミドのづあ21回、クラブ・アルス2回、玄関ライブ10回、かしだしたけし20回、タイムトラベル100時間ツアー15回、ひとインれじでんす9回、ちまたトーク10回、その他10回）、パンフレット制作：1万部、 郵送：2000部

●ひとインれじでんす（1-①と併せて行った） 計9回

1日目：施設見学、体験、研究会、重度知的障害者の暮らすシェアハウスでの宿泊

2日目：施設体験、公開トーク

（記録：高石萌生、和久井碧）

1・岸野雄一（音楽家・東京芸術大学）5月25日～26日

「音楽と地域コミュニティ」参加者30名

2・岸井大輔（劇作家）8月3日～4日

「共有することは可能か 暮らすこと、ともにいること」参加者25名

3・松村圭一郎（文化人類学者・岡山大学教授）9月13日～14日

「生きのびるための<関係>の技法」参加者40名

4・村上慧（作家、アーティスト）10月4日～5日

「地面が凸凹してきちゃう」参加者35名

5・西川勝（臨床哲学プレーヤー）10月9日～10日

「いしけっていしえんかいぎ」参加者30名

6・伊藤亜紗（美学者・東京工業大学教授）11月8日～9日

「ままならないこの体を、おもしろがること」参加者40名

7・小松理虔（作家・地域活動家）11月14日～15日

「『ただ、そこにいる人たち』その後～私たちが生き延びるために」参加者50名

8・松尾亜紀子（編集者・エトセトラブックス代表）12月8日～9日

「つなげる・ともにいる」参加者35名

9・青田元（ヤマハ発動機株式会社執行役員、新事業開発本部長）1月10日～11日

「ヤマハ発動機青田さんに聞く！これからの共創事業のリアル」参加者40名

●クラブ・アルス 2回

1・岸野雄一+その他 6月11日 たけし文化センター連尺町 参加者80名

2・クラブアルス@凸凹まつり 9月21日 新川モール 参加者500名

●かたりのヴぁ 12回

- 1・4月8日 「人生」 ファシリテーター：佐藤啓太
- 2・5月11日 「おじさんを考える」 塚本千花
- 3・6月10日 「気をすます、気をまぎらわす」 高林洋臣
- 4・7月6日 「魔改造のすすめ」 松本利浩
- 5・8月5日 「夏の言葉と落書き」 見山陸生
- 6・9月7日 「常識ってなに？」 内田翔太郎
- 9・12月9日 「がんばらないこと」 櫻井喜維智
- 10・1月4日 「迷惑」 福島憲太
- 11・2月10日 「好き」 石山律
- 12・3月1日 「別の用途」 松宮俊文

●ミドのヴぁスペシャル 9回

ファシリテーター：久保田翠

- 1・7月9日 「子供の自立と親の自立～親の人権、子どもの人権」
- 2・8月20日 「家族という呪縛～家族のことは家族が担うべきものなのか」
- 3・9月10日 「母親・女性神話の幻想～母親は家族のために人生をささげていいのか」
- 4・10月8日 「役割分担の幻想～音かだから、女だからの呪縛」
- 5・11月12日 「家族神話の幻想～家族がいるから安心？家族がすべてを担えるのか」
- 6・12月10日 「健康で文化的な生活って何？」
- 7・1月14日 「文化的な生活が必要な理由」
- 8・2月18日 「これからの住まい・くらしのカタチ」
- 9・3月11日 「これからの住まい・くらしのカタチ2」

●ちまちまトーク 10回

- 1・8月28日 ROCCA 美容室
- 2・8月30日 鈴木藤男 鈴木邸当主
- 3・9月4日 荒石真生 JICA 浜松デスク
- 4・10月21日 空閑美帆 ツインギャラリー蔵
- 5・11月21日 後藤誠之 TYU BEER 代表
- 6・11月27日 御園井智三郎 ミソノイサイクル代表取締役
- 7・12月3日 竹村有希 FabRab 浜松/TakeSpace テキスタイル担当
- 8・1月15日 中出愼祐 WestGoalCaffe オーナーバリスタ
- 9・1月21日 高橋久美子 古本屋サイダーハウス・ルール
- 10・2月28日 山崎大介 ZOOT HORIN ROLLO 店長

●福祉講座 1回

- 1・作業療法から考える 7月13日

④シラス隊（ボランティア隊）の結成

表現未満、センター事業を通して、地域住民の参画を促しながら、ともに文化活動を支える人材育成を

行う。

●凸凹まつりにおける凸基地制作（アーティスト監修による制作） 8月26日～9月20日（参加人数：100名）

凸凹まつりサポート 9月21日（参加人数：50名）

- 1・凸凹まつり振り返りのためのZINづくり 10月12日～
- 2・凸凹まつり・シラス隊実行委員会（7月12日）
- 3・凸凹まつり・シラス隊実行委員会（8月2日）
- 4・凸凹まつり・シラス隊実行委員会（9月14日）
- 5・シラス隊実行委員会（9月28日）
- 6・凸凹まつり妄想会議（1月16日）

【協力団体】浜松国際交流協会、JICA 浜松デスク、浜松科学館、浜松社会福祉協議会、株式会社 HACK、ヌートリア、TAKESPACE、プスプス、アサギマダラスポーツ、ONEGAME 浜松、リッチモンドホテル 浜松

#### ⑤地域の祭りを作り上げる～お祭りごっこ みんなでつくる凸凹まつり（一部別予算）

地域住民とともに作り上げる祭りを実践した。地元アーティストを招聘し、地域住民と協働で張りぼて作品を作り上げ、その発表を兼ねた祭り（盆踊り、屋台、クラブ、スケートボードパーク、ZINE、FabLab（ファブラボ）、マルシェなど）を他団体と協働で実施した。（別助成金）

- 期間 製作期間 6月～9月 凸凹まつり（9月21日）
- 場所：新川モール
- 参加人数：参加関係者・ボランティア 100名、20団体
- 来場者：4000人
- チラシ制作：3000部（うち2000部郵送）

【協力団体】浜松市文化振興財団、クリエート浜松、浜松市商店界連盟、浜松市中央自治連合会、浜松市国際交流協会 HICE、JICA 浜松デスク、浜松市社会福祉協議会、株式会社 HACK、ヌートリア、TAKESPACE、プスプス、アサギマダラスポーツ、ONEGAME 浜松

#### 【実行委員会メンバー】

浜松いわた信用金庫 辻村昌樹、鈴木とも子

株式会社 HACK 高林健太

NU-TRIA SKATE PARK 近藤哲也

BLUE LAKE PROJECT 夏目記正

浜松 PPP デザイン 鈴木裕也

株式会社マスターピース 新村康二

株式会社エージェンシースギタ・デキシィ 杉田策弘

Co-startup Space & Community FUSE 渡辺迅人

ヤマハ発動機株式会社 吹田善一

浜松市職員 佐々木豊

みかわや | コトバコ 大端将

浜松まちなかにぎわい協議会 吉林和穂

一般社団法人 ASOBI 寺田美穂子

一般社団法人浜松商店界連盟 渡辺友紀子

社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 久野  
浜松国際交流協会 HICE 松本由紀  
JICA 浜松デスク 荒石真生  
浜松市科学館みらいーら職員有志 横田誓子、加藤香名子  
(公財)浜松市文化振興財団クリエート浜松 清水栄利花  
浜松市市民協働センター 鈴木恵子  
静岡文化芸術大学 磯村克郎  
アサギマダラスポーツ 竹山友陽  
浜松市中部協働センター 佐藤拓男  
第一学院高等学校講師 村松さん  
国立大学法人浜松医科大学ボランティアサークル四つ葉 近藤千秋

●高齢者、子ども、障害者、外国の人など多様な住民がアートを主体とした共同制作を通して交流する機会を創出。ボランティア隊の立ち上げ、LINE グループへの登録者数 51 人。

#### 【開催イベント】

「夏の終わりの秘密基地！～みんなでつくる凸デコづくり～」

ちまた公民館で期間限定の制作場所「デコ基地」を作った。複数の地元アーティストを招聘し、地域住民とともに作業を行い完成を目指す巨大な張り子（凸デコ）づくりや関連ワークショップ、更に、ものづくりに限らず、住民同士が交流するイベントもちまた公民館で実施した。

#### 【概要】

##### 【巨大張り子制作】

- 期間：8 月 26 日～9 月 20 日 ●場所：ちまた公民館
- アーティスト：遠州天狗屋(縁起物作りユニット)、竹村真人 (FabLab 浜松/TAKE-SPACE タケム研)
- 開催日 (23 回)：8/26(月)、27(火)、28(水)、29 (木)、30(金)、31 (土)、9/2 (月)、3(火)、4(水)、5 (木)、6(金)、7(土)、9 (月)、10(火)、11 (水)、12 (木)、13 (金)、14(土)、16 (月)、17(火)、18(水)、19 (木)、20 (金) 各日 13:00～17:00
- アーティスト滞在日 (9 回)  
8/27(火)、30(金)、9/3(火)、9/4(水)、6(金)、7(土)、10(火)、14(土)、20 (金)  
各日 13:00～17:00
- 参加者数：延 267 名 ●期間内の活動情報 LINE グループ登録者数：51 名

##### 【お面作り、その他ワークショップ】

巨大張り子制作で交流を図る一方で、作りたい方に限定せずより幅広い方が参加できるように、実行委員会として参加する団体やお店による、トークやまちあるき等の様々なワークショップも開催した。

##### 「まちなかポタリング」

講師：Greencog 店主

8/29(木) (台風接近の影響により中止)

9/12 (木) (都合により中止)

9/5 (木) 18:00-19:30 5 名参加

「光るシャカシャカシラカスを作ろう」

講師：浜松科学館みらいーら有志

協力：浜松科学館

8/31(土) (台風接近の影響により 9/7(土)に延期)

9/7 (土) 13:00-15:30 場所：ちまた公民館 21 名参加

「シルクスクリーン作り！」

講師：アサギマダラスポーツマネージメント（竹山）

会場：みかわや | コトバコ（浜松市中央区尾張町 126-1）

定員：10～20 人

9/13(金) 18:00-21:00 10 名参加

「メキシコのアーティストラウラさんのフリースローウィング」

講師：ラウラ・ロドリゲス Laura Rodriguez

定員：10 組

9/14(土) 10:00-12:00 15 名参加

「カラフルお面づくり」

講師：プスプス byZING(オープンパブリッシングスタジオ&ZINE ショップ)

9/16(月・祝) 10:00-13:00 17 名参加

・その他

集客にあたり上記 WS の予定、共同制作の参加方法等を記載した「凸凹まつりデコ基地カレンダー」を 2000 部作成し市内の文化施設や各種ショップ等に実行委員会の協力を得ながら 76 箇所配布した。

## 「お祭りごっこ！！みんなでつくる凸凹まつり 2024」

完成した制作物の披露目の場でありより多くの人の目に触れ交流につながる祝祭的イベントを新川モールで実施した。そこでも地域住民、市民の出会いと交流を図り、仲良くなる機会をつくり出した。

### 【概要】

開催日：2024 年 9 月 21 日(土)

11:00～12:00（海遊パレード）12:00～18:00（凸凹祭り）

場所：新川モール浜松市中央区田町 230-28

（遠州鉄道「第一通り駅」高架下南側）

入場料：無料

当日参加者数：1000 人

チラシ、ポスター配布：76 箇所

◆デコキチウナギわんぱく！海遊パレード

時間：11:00～12:00 参加費無料

（海遊パレードはちまた公民館から出発）

◆出演：浜松盆部、dj nagajilow(長治賢太郎)、okunoyama(MAYA)(奥之山正裕)

◆出店：NU-TRIA skatepark(スケートボード体験)、たこ八珍(たこ焼き)、バンコクカフェ(タイ料理)、アサギマダラスポーツ(ウォーキングフットボール)、遠州天狗屋(張子人形)、幻想工房きつねや(恐竜シール)、ONEGAME(e スポーツ体験)、ラウラ・ロドリゲス(アート体験)、プスプス byZING(カラフルお面づくり)、浜松科学館みらいーら有志(科学体験)、(公財) 浜松国際交流協会(HICE)、JICA 浜松デスク(korekara Buddy Room(これからバディルーム))、出張ちまた公民館

◆音響：望月誠人

◆撮影：瀬里晶、樽林写真事務所

◆チラシ、ポスターデザイン：デザインほとり安達彩夏

◆後援：浜松市

### 「凸凹まつり後の関係づくり」

交流を今後恒久的に継続させていくための仕掛けについても併せて検討した。

#### 【概要】

まつりイベント開催後、次に向けてわくわくする気持ちを膨らませて話し合うことで人間関係を繋いでいく事を目的に、事後の交流イベントを以下の通り行った。

#### 【凸凹まつり振り返り ZINE 作りワークショップ】

講師：プスプス byZING(オープンパブリッシングスタジオ&ZINE ショップ)

会場：プスプス by ZING (浜松市中区成子町 56 ハトビル 101 号室)

10 月 12 日(土) 参加者：10 名

11 月 30 日(土) 参加者：10 名

#### 【凸凹まつり 2025(仮) 実行委員会】

第ゼロ回「次回の凸凹まつりを自由に妄想する会」

1 月 16 日(木)18 時～21 時@ちまた公民館

参加者数：5 団体 12 名 プランの数：33

### (13) その他、本会の目的を達成するのに必要な事業

今年度事業実施なし

#### ■2024 年度 出演・登壇

##### 【2024 年】

5/4(土) 「ふじのくにぎせかい演劇祭 2024」関連企画の広場トーク「まちとアート」(@静岡市)に久保田翠が登壇

5/18(土) TSC(結節性硬化症)患者家族向けのイベント「TSC Global Awareness Day in JAPAN」(@浜松市)に久保田翠が登壇

6/18(火) 2025 年度開設される ZEN 大学のオンライン講義「地域課題の解決とイノベーション」に久保田瑛がゲスト出演(収録)

6/20(木) 花園会・浜松公立保育園園長会(@浜松市)に久保田翠が講演

7/6(土) 日本財団「みらいの福祉施設建築ミーティング」(@東京都)に久保田翠が登壇

7/10（水） 静岡文化芸術大学・南田ゼミ（@浜松市）でスタッフ水越が講義  
7/25（木） 城北南民事協（@浜松市）で久保田翠が講話  
8/3（金） ワシントン大学ジャスティン・ジェスティ先生がコミュニティアートの枠で当法人の活動について発表  
8/10（土） 高校生向け起業家人材育成プログラム「しずおかスタートアップキャンプ」に久保田瑛がメンターとして参加  
8/11（日） アウトプット展 2024 講演会「ともにいることの可能性」（@青森県青森市）に久保田翠が登壇  
9/8（日） 「ボランティア全国フォーラム 2024」（@宮城県仙台市）に久保田翠が登壇  
10/22（火） 障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座 2024 オンライン講座「芸術で何ができる？福祉施設の実践」に久保田翠が登壇  
10/23（水） キャパシティビルディング講座 2024 第4回『実践者との対話を通じ活動の推進力を磨く～「表現未満、」という考え方を通して実現する対話と表現とまちづくり』（オンライン）に久保田翠が登壇  
11/15 地域にアートは必要か  
11/30（土） 花園保育園（浜松市） 久保田翠が講演  
12/7（土） 令和6年度港区立みなと芸術センター整備に向けたプレ事業「対話と学びのワークショップ～おしゃべりからはじめるコモニング～」(@東京都港区)に久保田瑛が登壇  
12/15（日） 第3回アートプロジェクトのつくり方「きかくの場」（浜松市）に水越雅人が登壇

#### 【2025 年】

1/18（土）、19（日） 「いばふく」プロジェクト「ケアデザインサミット 2025」（@茨城県水戸市）にスタッフ・久保田瑛が登壇  
2/5（水） ステージラボ堺セッション「文化施設のコミュニケーションを考えるーみんなで哲学対話」（@大阪府堺市）に久保田翠が登壇  
2/22（土）、2/23（日） 全国アートNPOフォーラム 2025 in 神戸「態度が歴史になる」（@兵庫県神戸市）に久保田瑛が登壇  
3/1（土） オンラインシンポジウム「知的障害者の自立生活 これまでとこれから」（オンライン）にササキユイチが登壇  
3/23（日） 「第23回 日本音楽療法学会東海支部静岡大会」（@静岡市）に久保田翠が講演

#### ■研究論文、学会発表

「人権のためのシティズンシップ教育」の意義と課題  
—市民社会組織による子どもを対象とした学習プログラムの考察を通じて—Significance and Issues of Citizenship Education for Human Rights  
- Learning from an Examination of Learning Programs for Children by Civil Society Organizations-  
立教大学大学院社会デザイン研究科 社会デザイン学専攻 梁井 裕子 2024 修士論文

日本文化政策学会第18回年次研究大会 認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツの「表現未満、」プロジェクトの活動経緯に関する一考察  
和久井碧（立教大学大学院社会デザイン研究科博士後期課程 2 年）

5/24（金） NHK 静岡がちまた公民館を取材。（記事「静岡浜松 “ちまた公民館” もうひとつの居場所  
つかず離れず、の距離感がもたらす心地よさ」）

9/14（土） 中日新聞「出し物の張り子を一緒に作ろう」

9/18（金） 静岡新聞「多彩な催し凸凹まつり」

9/28（土） 中日新聞「誰もが楽しくお祭り気分 新川モール 工作や運動体験 13 ブース」

10/16（水） 朝日新聞「福祉とまちづくり、切り離せない 誰もが生き延びられる社会づくりを」

10/17（木） リッチモンドホテル浜松のスタッフブログでちまた公民館が紹介されました

11/15（金）美術館・アート情報の Web マガジン artscape（アーツスケープ）に代表・久保田が出演  
した記事「久保田翠×上田假奈代×武田知也（聞き手：影山裕樹） | 地域にアートは必要か？——人、ま  
ちの膠着関係に風穴をあける「福祉」を探る [前編]」が公開（[後編] は 11/18 に公開）

3/1（土） 京都哲学会議レポート掲載されました



### 生きのびるための エクササイズ

～生きること、暮らすこと、過ごすこと、出会うこと～

**認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ**

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツは20年以上にわたる民生支援の実績を目標として活動してきたアートNPOです。芸術の力で暮らすための様々なサービスや事業、また様々な事業活動を行っています。2024年度から「生きのびるためのエクササイズ」を展開し、希望を通じて活動できる事業をこなします。

**たけし文化センター・無料可**

希望の芸術的関心を結ぶしながら、様々な人たちが集い、学び・交流する文化センター。

**ちまた公民館**

誰もが利用できる多目的な公民館。人が集い、暮らすことで生まれる居る可能性を支援する場所。

**会場MAP**

たけし文化センター・道代町  
新川市道代町中央区道代町 314-303

ちまた公民館  
新川市中央区道代町 327-24  
万寿寺（寺内）1階

新川モール  
新川市中央区道代町 230-230  
新川市道代町（第一通り）道代町下町

**お問い合わせ**

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ  
〒430-0908 静岡県浜松市中区道代町 314-303 たけし文化センター・道代町  
（電話）053-451-1355 （メール）lets-arts@npo-lets.jp

Webショップ 会員募集 毎月メルマガ配信

主催：文化庁、認定NPOクリエイティブサポートレッツ  
文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

### 生きのびるための エクササイズ

～生きること、暮らすこと、過ごすこと、出会うこと～

困難な状況におかれたとき、  
「出口がない」と思うことがあります。  
災害、孤立、感染症、差別、貧困など危機的な状況だけでなく、  
住む家がない、友達がいらない、周りの人の能力、期待されすぎていて…  
といった、いつかどうにか終わるかもしれない、そんな状況に陥って、  
知的障害のある人たちと共に生きてきたクリエイティブサポートレッツは、  
これまでアートの力でなんとか切り抜けてきました。  
今度はそんな状況と一緒に「生きのびるためのエクササイズ」をしてませんか？  
エクササイズは、いろんな見え方に出会える「見え方を増やすエクササイズ」、  
そして、活動の場をつくる「しるしをつくるエクササイズ」の  
二種類のプログラムをご用意しています。  
笑顔に繋がれるものから、じっくり考えるものまで、  
各種そろえて、あなたを応援しております。

**2つのプログラム**

「見え方を増やす」  
「しるしをつくる」

開催期間 **2024.5.1 ~ 2025.3.31**

会場 たけし文化センター・道代町・ちまた公民館・新川モールほか  
申し込み 各イベントごと（無料イベントあり）

## 生きのびるための エクササイズ

～生きること、暮らすこと、過ごすこと、出会うこと～

### 2024年度記録集

**制作**

岸井大輔  
大久保孝志  
松村圭一郎  
村山雄  
池田貴子  
西川勝

**監修**

伊藤亜紗  
小松理恵  
エドモントラップス代表  
松尾亜紀子  
青田元

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

# お祭り!! みんなで作る でこぼこまつり

## 2024

**2024.9.21sat**  
**新川モール 12:00~18:00**  
浜松市中央区田町230-28 徳州鉄道「第一通り駅」高架下南側

**8/25(月)**  
**8/20(金)**

**デコキチウナギ制作**

デコキチウナギとは？  
①(デコキチ)お祭りしたデコキチウナギ  
みんなの思いを込めてデコキチウナギ  
デコキチウナギ制作  
【場所】デコキチウナギ制作  
【時間】デコキチウナギ制作

**9/21(土)**  
**11:00**  
**12:00**

**デコキチウナギ**  
**わんぱく! 海遊パレード**

制作したデコキチウナギと  
シタカスを持って街をパレードします!

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ  
電話：053-451-1355 メール：lets-arts@npo-lets.jp  
住所：静岡県浜松市中区道代町314-303

デコキチ（ちまた公民館） 新川モール（道代町）  
住所：静岡県浜松市中区道代町327-24 (住所：静岡県浜松市中区道代町230-28  
万寿寺（寺内）1階） 徳州鉄道「第一通り駅」高架下南側

【主催】認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 【共催】浜松市文化芸術振興局、静岡県文化芸術振興局、静岡県文化芸術振興局、静岡県文化芸術振興局  
【後援】アートカウンシル浜松市、【協賛】静岡県文化芸術振興局、静岡県文化芸術振興局、静岡県文化芸術振興局、静岡県文化芸術振興局

